旋律や曲想を生かして歌おう

～『ゆかいに歩けば』の聴き合い ～

１　題材のねらい

旋律や曲想をもとにして，曲の特徴に合った歌い方に対する自分の思いや意図をもち，それらを伝えたり，互いの表現を聴き合ったりしながら，表現を工夫することができる。

２　授業の構想

⑴ 子どものとらえと資質・能力について

以下に示すのは，校内音楽会に向けての合同音楽で『スキンブルシャンクス』の歌唱に取り組んだときのふりかえりである。

> ○「笑顔を見せて」という歌詞があるから，笑顔で歌うところは特に気をつけて歌いたいと思いました。それと，おおかみさんの声（頭声）やｍｐで歌うところができなかったので，強弱をつけて歌えるようにがんばりたいです。（児童Ａ）

子どもたちは，歌唱に取り組む際，歌詞の意味を考えて歌ったり，曲全体のイメージから，頭声できれいに歌いたいという思いをもったり，強弱をつけてより豊かな表現になるよう工夫しようとしたりしている。

このような子どもの姿から，本題材では，さらに曲想や音楽を形づくっている要素の働きを感じ取り，曲の特徴に合った歌い方を工夫し，思いや意図をもって進んで歌唱活動に取り組む姿を目指していきたいと考えた。

今回取り組む『ゆかいに歩けば』（保富康午　日本語詞/メラー　作曲）は，スタッカートの付いた弾んだ旋律の前半部分と２分音符で伸ばしながらだんだん上行していく後半部分からなる二部形式（Ａ＋Ｂ）の曲である。前半と後半で旋律の特徴の変化がとても分かりやすく，２つの対照的な旋律の特徴を生かした歌い方を工夫していくことができると考えた。また，曲の後半に出てくる曲の山に向かう部分では，伸ばす音とスタッカートの付いた音の歌い方の違いや音の上がり下がりと強弱の関係に気を付けて歌う工夫もでき，旋律や曲想を生かしながら歌う活動に適した楽曲であると考える。スタッカートの部分では，腹筋を使って声を短く弾んだ感じで出すことや音が上行するときにはクレシェンドをしながら歌うなど，特徴に合った表現に結び付けやすいというよさがある。

⑵ 資質・能力をはぐくむために

本題材は，学習指導要領のＡ表現（１）イ「歌詞の内容，曲想にふさわしい表現を工夫し，思いや意図をもって歌うこと」（２）ウ「音色に気をつけて旋律楽器及び打楽器を演奏すること」にかかわる学習を進めていった。曲に対する自分の思いや意図をもち，その思いを伝え合い，表現を聴き合うことで高め合っていく姿を大切にしていきたいと考えた。

第１次では，『聖者の行進』をリコーダーで演奏し，スタッカートを生かした表現についての学習を設定した。スタッカートの有無やスタッカートの音の切り方によって，曲想がどのように変わるのかを感じ取らせることで，『ゆかいに歩けば』での曲の特徴を見付ける活動につなげた。

第２次では，まず，『ゆかいに歩けば』の曲の特徴を見付ける活動を行い，一人一人に楽譜付のワークシートを渡し，自分の思いや意図を書かせるようにした。今回は，主旋律にしぼり活動を行った。ここでは，「スタッカートが付いている」「後半は音が長くなっている」という旋律の特徴だけではなく，「だからこう歌いたい」という思いや意図も書くように声がけをした。個で考えた後は，全体で見付けたことを共有し，曲に対する共通のイメージをもてるようにしていった。

次に，見付けた特徴をもとにして，歌い方のポイントを考えていく活動を行った。例えば，「スタッカートの音は弾んだ感じで歌いたいから，お腹を使ってしっかり声を出す。」のように，特徴を生かした表現にするための演奏方法まで考えさせるようにした。「スタッカート」「強弱」「歌詞や曲想に合った声」の３つは，子どもたちから意見が出るように，導入からの積み重ねを大切にしながら授業を行った。

３　展開計画（全５時間）

次	時	主な学習と具体的な学習・内容	◇願う子どもの姿
1	1	○『聖者の行進』を演奏し，スタッカートが付いている部分と付いていない部分の違いを感じ取る。	◇スタッカートの有無による演奏の違いに気付き演奏に生かそうとする姿
2	2	○『ゆかいに歩けば』の曲の特徴を見付ける。 ・旋律の特徴を個人で見付けたあと，学級全体で話し合う。 ・音取りをする。	◇楽譜や範唱から見付けた旋律の特徴を進んで伝える姿 ◇旋律の特徴を生かした歌い方になっているかを考えながら歌う姿
	3	○スタッカートの付いた部分の表現の工夫をする。（曲の前半） ・歌い方のポイントを楽譜に書き込み，表現の工夫をする。	◇自分の思いや意図を積極的に伝えたり，曲想に合った表現にしようとしたりする姿
	4	○スタッカートや強弱を生かした表現を工夫する（曲の後半） ・グループに分かれて演奏の工夫をする。	◇お互いの歌声をよく聴き合い，アドバイスをしながら，表現を工夫する姿
	5	○学級全体で歌い，成果を確かめる。	◇曲に対する自分の思いが伝わるように，見付けたポイントを生かし楽しんで歌おうとする姿

４　授業の実際

(1) 気付く力を高める

① スタッカートの有無による感じ方の違いを感じ取る『聖者の行進』（第１時）

本題材は，スタッカートの表現の工夫を中心に学習を展開していくため，まず，スタッカートの有無により，演奏がどのように変わるのかを感じ取ることから始めた。教師の範奏による，楽譜通りにスタッカートの付いた演奏とスタッカートを全て取った演奏を聴き，感じたことを伝え合った。子どもたちは次のようなことを感じていた。

スタッカートの付いた演奏

・はねる感じ　・きりっとしている
・楽しそう　・弾んでいる
・行進のイメージに合っている
・スタッカートの付いた音ははっきりしている。

スタッカートを取った演奏

・なめらか　・のびている　・安心する
・流れている感じ　・のんびり
・行進の感じはしない
・曲名に合っていない

スタッカートが付くことにより，音や曲想がどのように変化するのかを共有した後に，リコーダーでスタッカートの付いた音を実際に吹いてみた。人によって音の切り方に違いがあることに気付いた子どもやイメージしたスタッカートの吹き方にならず何度も練習する子どもの姿などが見られた。

② 旋律の特徴を見付ける『ゆかいに歩けば』（第２時）

図１：リズムに乗って動きながら歌う様子

教師の範唱を聴いた後で，まずは『ゆかいに歩けば』を歌いながら歩いたり踊ったりして，曲の雰囲気を感じ取るところから始めた（**図１**）。曲に合わせて楽しそうに歌う姿が見られたのはもちろんであるが，自然と曲想を感じ取り，曲の前半と後半で体の動きが変わる様子が見られた。歌った後で，「どんなときに歌いたくなるか」という問いかけをしたところ，「ピクニック」「晴れの日」「遠足」「登校中」「登山をしながら」などの感想が出た。次に「どんな風に歌いたい」と，問いかけると，「歌詞のように明るく歌いたい」「リズムに乗って楽しく，気持ちよく歌いたい」という意見が出た。体を動かしながら歌ったことで，この曲の良さを子どもたちは自由に感じ取り，表現の工夫への意欲を高めていった。

旋律の特徴を見付ける活動では，今回，曲の１番のみ，主旋律のみの歌い方の工夫をしていくため，楽譜も１番の歌詞と主旋律だけが書かれた楽譜を渡した。まずは，自分の楽譜に気付いたことを書き込み，その後全体で共有した。

Aの旋律（前半）	Bの旋律（後半）
・スタッカートが多い ｛歌詞に合った感じ　はずんだ感じ はっきり歌うといい 小さい「っ」を入れて歌う感じ｝ ・たての拍　　・ずっとmfのまま ・たくさんスタッカートがあるけど，無いところもある。	・のばす音（２分音符・タイ）が多い →なめらかな感じになる ・横の流れになっている ・スタッカートの連続がある ・強弱の変化 →だんだん大きくなったり小さくなったりする ・音の階段になっている

楽譜から気付く旋律の特徴では，Aの旋律とBの旋律では，曲の感じが変わることに気付いたり，スタッカートの付いた音が多いという特徴の他にも，強弱やリズム，音が上行していく特徴なども見付けたりすることができた（**図２**）。

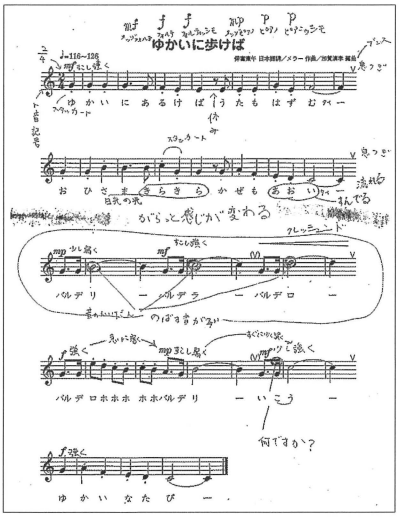

図２：旋律の特徴を書き込んだ楽譜

(2) かかわり合いの中で，表現を工夫していく

（第３時から第５時）

① 曲の前半

第２時で見付けた，旋律の特徴であるスタッカートの付いた音に注目して，スタッカートの付いた旋律の表現の工夫をグループで行った。個人で見付けた旋律の特徴を伝え合い，グループとしての表現の仕方を確認した後で，何度も歌いながらアドバイスをし合い，表現を工夫していった。曲の雰囲気に合わせて踊りながら歌ったり，一人ずつ順番に歌っ

たり，歌う人と聴く人に分かれて歌ったりするなど，積極的にかかわりながら活動する姿が見られた（**図3，4**）。スタッカートの表現の工夫に焦点を絞ってグループ活動をしたため，自分の考えを伝えやすく，グループのみんなで同じ思いをもちながら表現の工夫ができていた。また，第1時にスタッカートの感じ方の違いの学習を行ったことで，スタッカートに対する気付きが生まれ，スタッカートにもいろいろな演奏の仕方があり，どのような音の長さにするのかなどの工夫にも取り組むことができたと考える。グループ活動の後でいくつかのグループが発表を行った。以下は，この時間の授業のふりかえりである。

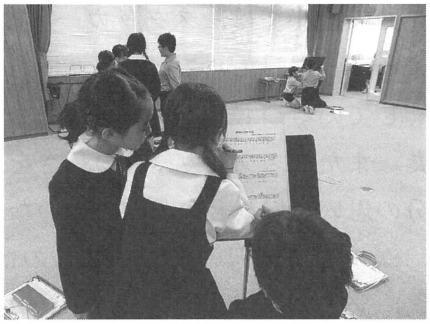

図3：グループ活動の様子

図4：グループ活動の様子

> はじめはスタッカートが付いてなかったけど，しっかり付けて歌ってみたら，歩く感じが出ました。（児童A）
>
> グループの人と踊ってはねてイメージをつかめました。Bのなめらかな感じもがんばりたいです。（児童B）
>
> Aはスタッカートがむずかしかったけど少しできたし，Bもどうしたいか決まっているので，思っているようにしたいです。（児童C）

「歌詞のように明るく歌いたい」という思いから，「もっとこうしたい！」という気持ちが生まれていた。グループで活動したことにより，かかわり合いの中で表現を深める意欲も高まっているように感じた。

② 曲の後半

初めに，『ゆかいに歩けば』を歌い，「もっとこうしたい」と思うことはあるかと問いかけた。その中で，「スタッカートが長くならないようにする。」「強弱をはっきりつける。」という意見が出たため，その意見をこの時間のめあてとして活動を進めた。児童は，グループの楽譜（**図5**）にどのように演奏したいかなど，演奏のポイントを書き込みながら，何度も歌って表現を工夫していった。

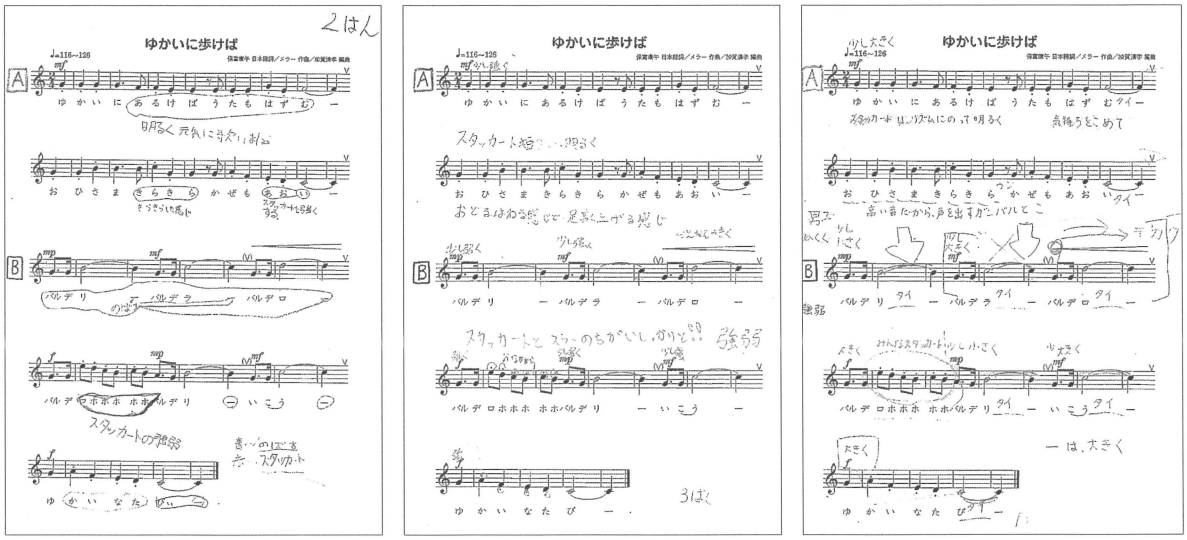

図5：グループの気づきを書き込んだ楽譜

曲の前半では，スタッカートの表現に焦点を絞って活動をしたが，後半では，グループによって表現したいことが様々であった。クレシェンドをしていく部分では，自分たちでは大きくしているつもりでも，聴いてもらうとあまり変化がないことに気付いているグループがあった。また，スタッカートの長さを工夫しているグループは，一人一人の求める演奏が違い，自分の思いを伝え合い，歌い合いながら，グループの目指す演奏に近づけていた。

グループ練習の後で，２つの班が練習の成果を発表した。発表の前に，「工夫したポイント」を伝えてから歌い，その後感想を伝えた。どのグループも自信をもって楽しく発表することができた（**図６**）。演奏を聴いた感想の中では，技術面での良さに気づいた児童や「声がしっかり出ているから，グループのみんなが安心して歌えていた。」など，演奏が高まることによって生まれる良さや雰囲気の違いにも気付くことができていた。

図６：発表の様子

曲の前半をグループで工夫する際には，児童はスタッカートの表現を高めようと同じ思いで活動ができていたが，後半では，工夫のポイントが複数になったため，グループごとに工夫することに違いがあり，歌唱表現を高めること以外にも，並び方や歌う順番などにも視点が移っていた。そのため，前半のグループ活動に比べて歌唱活動に没頭する姿が少なかったように感じた。

５　おわりに

⑴ 音楽を形づくっている要素に焦点をあてた授業展開の工夫

本題材では，スタッカートの表現に注目した表現の工夫を行ったが，題材を通してスタッカートの表現に絞りきることができなかった。そのため，題材（単元）の後半では児童の活動にもぶれが生じたと考える。教師が学習の対象に迷うことなく，一貫した授業を展開することの重要性を実感することができた。１時間１時間の授業づくりはもちろん大切であるが，題材を通した授業づくり（単元づくり）の大切さを改めて考えさせられた。

また，グループでの活動の前に，一人一人が自分の思いをもって活動ができるように，楽譜に気付いたことを書き込んだり，どのように歌いたいのかを考えたりする時間を設けたことは，思いをもって表現すること，気付く力や感じ取る力を身に付けさせるために有効であると考える。

⑵ コミュニケーションから生まれる表現

グループ活動での児童の意見や音楽表現の交流を通して，児童が自分では気付けなかった新たな表現につながる場面が多く見られた。そして，交流を通して表現がどんどん変化し，より自分の目指すものへと深まっていった。表現をすることに恥ずかしさを感じる児童もいるが，グループ活動によって，友だちに後押しされながら表現することの楽しさを感じることができたと考える。このような活動を繰り返し行うことで，「表現したい」という思いが強まり，伝えるためのコミュニケーション力も身に付いていくと考えている。

これからも，楽しみながら「気付く力」や「感じ取る力」を身に付けることのできる授業を実践していきたい。

（文責　上代　美樹）